

勿凝学問 73

華麗なる一族によるこの国の改革
インセンティブスキームとしての社会構造の破壊

2007年3月24日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

華麗なる一族によるこの国の改革.....	1
参考資料其の壱.....	4
勿凝学問の読者さんたちへ——日本落語協会および柳家さん八師匠の広報.....	5
参考資料其の弐.....	7
[年金ABC] 2007年4月からの公的年金改正（読売新聞）.....	7

華麗なる一族によるこの国の改革

「華麗なる一族」最終回(2007年3月18日)の視聴率は、関東地区30.4%、関西地区39.8%であったらしい。ということで、^{けいぼつ}閥閥の説明は略す。「華麗なる一族」で、閥閥という言葉が繰り返し出てくるのを観ているうちに、雑誌『選択』2月号に、「日本を支配する世襲閥閥議員——安倍晋三はその典型」という記事があったのを思い出した。

『選択』曰く、

「世襲議員と閥閥議員がそのいずれか一つで支配構造の住人となる例はむしろ稀で、いずれにも該当する世襲閥閥議員が特権的支配構造のメインストリームを形成してきた。この世襲閥閥議員こそが、戦後の日本を支配してきた、または支配し続けている見えざる力の正体なのである」。

ほほうっ、なんとも、その通りであるような気がしないでもない。

さて、世襲閥閥議員の典型であるらしい安倍首相が、閣僚・党三役の多くに世襲議員・閥閥議員を配した政権が推し進めている政策のうち、きわめて順調に効果が出ている2大政策は、官僚破壊と医療破壊であるように見える。すなわち、官僚（文系受験の勝者）および医師（理系受験の勝者）の権力の剥奪と地位の引き落としである。

おもしろいのは、現政権は、一方では、しっかりと勉強した子どもたちの行き着く先の官僚・医師の自尊心を傷つけながら、他方では、教育改革などもやりたいらしいのである。

さてさて、このふたつってのは両立するのだろうか？

最近、閥閥議員でもある幹事長が、「閣僚や官僚は首相への絶対的な忠誠と自己犠牲の精神が求められている」と——つまり受験競争の勝者である官僚は世襲閥閥議員の長に「絶対的な忠誠」を尽くすのが当たり前と言ったりもしている。たしかに、官僚に「忠誠心」は必要かもしれない。しかし「忠誠心」というものはアメを与えられて生まれるもの（報奨権力下で生じる関係）とムチで叩かれて生まれるもの（威嚇権力下で生じる関係）、それに相手の価値観に直接働きかけて心の底からその気にさせて生まれるもの（条件づけ権力下での関係）との3種類があるはず。ところが、現政権は、報奨権力・条件づけ権力の行使という方法を見向きもせず、威嚇権力の行使ばかりをとろうとしているように見える。子どもの頃から真面目に勉強してもあげくの果ては、世襲・閥閥議員の臣下、否、ムチで叩いて叩いて忠誠心を植え付けられる待遇しか待っていない。こういう社会環境の下、どういふ教育改革を行えば、子どもたちはちゃんと勉強する気になるのだろうか。お手並み拝見と行きたいところである。

一般家庭の子どもたちが、あなたたちと同じ支配階級に入りたいと言っても、そこは世襲・閥閥が欲しいままに独占している世界——政治家として偉くなるには、祖父の代から政治家であり、しかも岳父も目をみはる地位をもつ人でなければならないのがこの国、日本の有り様なのである。『華麗なる一族』の万俣家では、まだまだ役不足（?）。かつて、橋本龍太郎氏と小泉純一郎氏が総裁選で争っていたとき、「小泉さんが勝つよ。だって2世対3世の戦いで3世が勝つのが日本の政界だもん」と同僚に冗談を言って遊んでいたら、本当にそうってしまった——。

さらには、この国の「特権的支配構造のメインストリーム」（『選択』）にいる首相が、この国の対極にいる人たちに次のようなことを言ってあげていることもおもしろい——これってのはノブレス・オブリージュ（貴族としての義務感）ってものなのかな（笑）。

（「チャンスにあふれ、何度でもチャレンジが可能な社会」の構築）

一人ひとりが、日々の生活に対して、誇り、生きがいや、充実感、明日への希望を感じられることが大切であり、そのための経済成長でなければなりません。国民それぞれの個性や価値観にも着目し、「働き方」と「暮らし」を良くしていくことにこそ力を注ぎたいと思います。

特に、私は、勝ち組と負け組が固定化せず、働き方、学び方、暮らし方が多様で複線化している社会、すなわち、チャンスにあふれ、誰でも何度でもチャレンジが可能な社会を創り上げることの重要性を訴えてまいりました。様々な事情や困難を抱える人たちも含め、挑戦する意欲を持つ人が、就職や学習に積極的にチャレンジできるよう、今般取りまとめた「再チャレンジ支援総合プラン」に基づき、全力を

あげて取り組みます。

具体的には、就職氷河期に正社員になれなかった年長フリーターなどに対し、新たな就職・能力開発支援を行うとともに、新卒一括採用システムの見直しなど、若者の雇用機会の確保に取り組みます。**パートタイム労働法の改正により、仕事に応じて正社員と均衡のとれた待遇が得られるようにするとともに、正規雇用への転換も促進します。パートタイム労働者も将来厚生年金を受けられるよう、社会保険の適用を拡大します。**経済的に困難な状況にある勤労者の方々の底上げを図るべく、最低賃金制度がセーフティネットとして十分に機能するよう、必要な見直しを行うとともに、自立の精神を大切にするとの方々の考え方の下、働く意欲を引き出すような就労支援を図ります。

社会の第一線をリタイアされた方が、誇りを持って第二の人生に取り組む場を提供することも大切なことです。熟練の腕を活かした再就職や、農林漁業への就業の支援、開発途上国に対する技術協力への機会の提供など、高齢者や団塊の世代の活躍の場を拡大します。

[第 166 回国会における安倍内閣総理大臣施政方針演説](#)（平成 19 年 1 月 26 日）

2 世、3 世や尊敬すべき岳父を持つことが必ずしも悪いというわけではなく、地盤・看板・カバンが希薄なために、人として少々品格に欠ける戦略をとっていかなければ政治家として生き残ることの難しい日本の政界全般を含めて、この国で最も改革が必要な世界は、「政界」ではないのかと思ひ始めて久しい。けれども、今日のところはそれはさておき……。

組織は人であると言え、人はそうだと答えるだろうし、会社は人であると言っても、人はそうだと答えるだろう。しかしながら、国家は人だと言うと、想像力がついてこられる人とそうでない人がいるようなのである。

国家も人である——2 日前の 3 月 22 日に亡くなられた気概ある作家、城山三郎氏が「個人ががんばっても指導者が間違えば国は滅ぶ」とおっしゃっていたのを引用するまでもなく、国家は人である。支配階級が世襲・閥閥に支配され、立身出世という言葉が死語となって教育がエリートの再生産システムとして機能しておらず、教育の階段を駆け上ってみても世襲・閥閥議員という支配階級にいいようにあしらわれる社会——どのように考えれば、「活力ある国」、「教育が再生された国」を創造できるのやら。

遠い将来、他国の歴史家たちは、「かつて日本という国があった。しかし滅びた。最大の原因は、他の先進国に比してエリート再生産システムが不健全だったからである」の一言で片付けられるおそれがあると思っていたりもする。とくに最近の、目の前の参議院選挙を乗り切るために、日本の行政システムの良いところも悪いところもひっくるめて破壊しようとする、ひいては目の前の選挙対策として日本のインセンティブスキームとしての社

会構造そのものを破壊しようとする世襲・閥閥議員たちの論をみたり、「人材バンクを作ったら（各省の）次官をオークションにでもかけたらどうか」〔『読売新聞』3月18日朝刊4面〕などの言を聞いたりしていると、そう思う。

メディアは、各省庁から官僚の退職後の人事権を奪うことにより官僚の自律性を喪わせて帰属意識を所属省庁から政治家に向かわせようとする動きを、きわめてよしとする論調で報道しているようであるが、この国の政治家はそれほどに信頼できるものなのか。政治家性善説に寄りすぎていないか。世論は、政治家は正しく政治家の正しい企てを邪魔しているのが官僚という構図で話をしているようなのであるが、この仮説は現実のこの国の政策形成過程を正確に描写しているのか。いまの官僚には問題はあるが、しかしながら、いまの政治家にもそれに負けず劣らずの問題があり、官僚という拮抗力が消えるとすればいまの日本の政治は危険でさえある——わたくしにはそう見えてしまう。

再び『選択』曰く、

「日本と同じ島国で同じく立憲君主制の民主主義国家を形成している英国には、日本のような世襲議員や閥閥議員は皆無といわれている。文字通りの二世議員・三世議員は存在するが、それは本人の実力と努力の正当な結果であり、ブレア首相も日本で言う陣笠代議士から英国の政治リーダーとなった。世襲に閥閥を重ねるのではなく、実力に努力を重ねるのでなければ、政治の本当のダイナミズムは生まれてこない」。

再度言うておく——2世、3世や立派な岳父を持つことが必ずしも問題ありというわけではなく、日本の政界全般を含めて、この国で最も改革が必要な世界は、「政界」の改革ではないのかと思っているのである。

なお、わたくしが支配階級・エリートという言葉を使うとき、モスカ、パレート、シュンペーター流の支配階級と被支配階級が存在する寡頭制的な民主主義論、エリート論を基礎においていることに注意されたい。普通に考えれば、支配階級・エリートなどのキーワードを欠く民主主義国家論など無意味であることはお分かりになられると期待したい。

参考資料其の壱

勿凝学問 5 [マニフェストと小選挙区比例代表並立制の矛盾（II巻『年金改革と積極的社会保障政策』所収）](#)

勿凝学問 9 [あの話はどこに行ったのか？——民主党の世襲禁止令](#)

勿凝学問 53 [国家公務員と新聞記者の仕事、どちらの方が高い報酬で報われるべきなんだろう？——人事院「民間企業の退職給付等の調査結果」はおもしろい](#)

勿凝学問 71 [予測される完膚無きまでの負け戦——パート労働厚年適用問題再々考](#)

勿凝学問の読者さんたちへ——日本落語協会および柳家さん八師匠の広報

新作を書きましたよ、と知人に連絡をすると、

> 新作は既にチェック済でございます。

と返事が来たり、はたまた、

> 先生のホームページは、時々、拝見させて頂いております。

ならばまだしも、

> 先生のHPは1日3回くらいチェックしてます。

なるものもあつたりする。

ということで、この場を借りて、日本落語協会および柳家さん八師匠の広報をさせていただきます——。

先日、新宿の末広亭に行って参りました。お目当ては、もちろん、さん八師匠の高座（勿凝学問 65 [柳家さん八師匠の年金高座](#)参照）。

ゼミの連絡板に、「明日は5時くらいから末広亭にいる」と書き込んでいたら、その時間くらいになると、ぞろぞろとフットワークの軽い学生たちも入ってきた。そして6時より、さん八師匠のご登場——お断りは年金制度が4月1日からいくつか変更されるので、それを取り扱われた内容（本稿7頁参照）。

いやあ、おもしろかったし、知らないことも教えてもらって・・・大満足。

さん八師匠に、「今後ともよろしく勉強させてください」と挨拶させていただいて、その後は、学生たちと落語と年金(?)論議を肴に、「[バブルへGO!](#)」ならぬ居酒屋へGO!

わたくしは、何年も前に寄席通いがマイブームとなったことがあるが、学生たちは、ぜんいんがはじめての寄席。凝り性のなんにんかが数年後には寄席ツウになっている種はまかれたかもしれない。

最近「柳家さん八師匠の高座はどこで観ることができますか？」との問い合わせを受けることがよくあるので、一般的な回答をしておきます。

落語協会本日の寄席というページがあります。

<http://www.rakugo-kyokai.or.jp/TodayKohban.aspx>

プログラムは、上旬（上席）、中旬（中席）、下旬（下席）と10日単位で変わります。上記ホームページで会員登録すると、10日に一度、メルマガが届きます。

ところで、勿凝学問——最近は、新作のお知らせを送らなくとも、みなさん読んでくださっているようで、ひとつの雑文を書くと、その日のうちにいくつも感想が送られてきたりする。ましてわたくしは、近い知人には、次のようなお願いをしているので、なおさらである。

- > 僕はみなさんと違って暇です。仕事は本を読んで考えて文章を書くこと。
- > 現場のことをみなさんと同じレベルで知ることはできません。
- > だから、わたくしに、なるべく連絡をして情報を与え、わたくしに現場の感覚を
- > 教えてくださるお役目をお願いします。
- >
- > 竹下登さんは、永田町で針が落ちる音まで集めていたという話があるけど、
- > 情報の重要性がいたいほど分かるようになったこの年になると、
- > なるほどなっという感じですね。

そうしたなか、先日、[勿凝学問 72](#)に「新聞で報道される自民党幹事長さんの談話などを読んでみると危惧の念を抱くのであるが、賛同者を募る」と書いたためか、次のような連絡がとどいた。

- > 権丈先生へ
- > 勿凝学問 72：賛同します！
- > ……素朴に今ある世界に対して、「なぜ」を問いかけるテキストとして、
- > 僕の周りにいるひとたちも、先生の HP をみています。
- > ……よくミツバチにたとえるんですが、
- > 先生の周りにも、たくさんの愛すべきミツバチたちが、
- > ブンブンうなっているのがみえます。それぞれが闘い続けるはずで、
- > 僕はそう信じています。

あはっ、どうもな（笑）。

まじめなアクションというのが小さい頃からなんとも似合わず苦手としているんだけど、他に選択肢もなさそうだから、

「万国のプロレタリア団結せよ！」（マルクス『共産党宣言』岩波文庫, p.87)

ならぬ、

「日本の労働者よ、団結せよ！」

とでも、いつの日か呼びかけるかい（笑）。

先日、労組のひとから、「[勿凝学問 64](#)でおっしゃってる労働党をつくろうというのは、どの程度本気ですか？」と問われたから、「あれは、冗談だよ」と答えた（笑）。それにしても、「春闘」の様子などをテレビでながめていると、いまこの国では個別企業での賃上げ闘争ってのも大切だろうけど、なぜ「社会的賃金(social wage)」ということが一言も議論されないんだなどなど、テレビに向かって言いたい文句は山ほどあるんだけど、今日はガマン。。。

参考資料其の貳

勿凝学問 64 [政治的選択肢がないこの国の不幸せ——労働党でもつくってみたいか？](#)

勿凝学問 54 [外需依存のリストラ景気か内需依存の規制緩和景気以外に途はないのか？——対立の軸は「勝ち組対負け組」などではなく「経済界対生活者=労働」だろうよ](#)

「社会的賃金」については、I巻所収「社会保障と経済政策——平等イデオロギーの実証分析」参照。

[年金ABC] 2007年4月からの公的年金改正（読売新聞）

2007/03/17, 東京読売新聞 朝刊, 17 ページ,

公的年金は4月から、さまざまな制度改正が実施されます。主な内容を紹介します。

＜保険料＞自営業者などの国民年金保険料は、4月から月240円引き上げられ、月1万4100円になります。

2004年の年金改革で、保険料を毎年4月に原則280円ずつ引き上げることが決まりました。ただし、物価と賃金の変動に応じて金額を調整するので、07年度は基準額(月1万4140円)より40円低い金額となります。

厚生年金の保険料率は、毎年9月に改定されます。

＜働く高齢者＞厚生年金には、60歳代で正社員などとして働くと、賃金に応じて年金を減額する「在職老齢年金」の仕組みがあります。4月以降、対象者が70歳以上にも拡大されます。

減額方法は60歳代後半と同じで、厚生年金(報酬比例部分)の月額と、毎月の賃金(年間賞与の12分の1を含む)の合計が48万円以下の場合、減額はありません。48万円を超える場合は、超えた額の半分が厚生年金から差し引かれます。例えば合計額が50万円の場合、超過額2万円の半分に当たる1万円が減額されます。

ただし、70歳以上の人は、正社員として働いても厚生年金保険料を徴収されません。

すでに70歳になっている人(正確には1937年4月1日以前に生まれた人)は当面、減額の対象外です。ただし、政府は今後、こうした人たちの年金も減額の対象とする方向で検討を進めています。

＜繰り下げ受給＞希望する人は、65歳以降の厚生年金の受給を66歳以降に遅らせることが可能

になります。まだ働き続けているなど、当面は年金なしで暮らせる収入のある人を想定した制度です。

受給開始を1か月遅くすることにより、将来の年金は0.7%増額されます。5年間遅らせて70歳から受け取ると、本来より42%多くなります。

ただし、60歳代前半の厚生年金(特別支給の老齢厚生年金)は、この制度の対象になりません。このため、60歳代前半でいったん受給が始まった後で、65歳から厚生年金の支給が止まる形となります。今年4月以降、65歳になる人が、この制度を利用できます。

<年金辞退> 公的年金は、いったん支給が始まると、自分の都合で受給を止めることができません。4月からは、生活に余裕があり「年金はいらない」という人は、受給を辞退できるようになります。将来、お金が必要になった場合には、請求すれば、その時点から支給されます。

どのぐらい利用者が出てくるか、注目されそうです。



今回は、4月からの制度改正のうち、女性にかかわりの深い内容を取り上げます。(石崎浩)